東由利村報

号外
発行
秋田県東由利村役場
昭和48年7月10日発行
印刷
KK本間印刷所

村の人口

総数		6,850
	男	3,349
	女	3,501
世帯数		1,541

村商工青年部野球チームの県大会出場、下郷分校卓球選手の全国大会出場、東中野球チームの地区予選準決勝進出などスポーツを通じて中・高生・一般にいたる本村勢の健闘が続き、喜ばしい傾向にある反面、将来ある青年が死亡するなどいたましい交通事故も発生、"事故ゼロ"へ願いをかける全村民に大きなショックを与えています。

そこで今回は、健闘した本村勢の活躍ぶりと事故防止にスポットを当て特集してみました。

本格的な暑さの訪れとともに交通事故の増加も心配されています。スポーツに寄せる全村民の関心を、そのまま事故防止に役立てることを切に期待したいものです。

健闘めざましい本村勢

念願の"出場権（県大会）"獲得

「団結と協調」商工発展に

村商工青年部

＝野球チーム＝

七月一日、台山グラウンドで開催された第六回由利郡本荘市商工青年部対抗野球大会は、県大会出場権をかけ一〇市町村一〇チームが日没まで熱戦を展開、本村商工青年部チームが初の県大会出場権を獲得しました。

本村チームは、一回戦で鳥海を13—1、二回戦では、金浦、岩城をくだして進出した本荘市由利郡内の商工青年部仁賀保を4—2で破り、県大会出場権をかけてはBブロックで由利、大内をくだして進出した矢島チームと対戦、互角の試合が進められる中で六回裏、佐々木千代志選手（大琴）の三ランホーマーで一挙に三点を追加、5—3で念願の出場権を獲得しました。

このあと、前年度の県大会優勝で無条件に今年度の同大会出場資格を与えられていた本荘市と郡大会の優勝をかけて四試合目の本村勢と初試合の本荘市チームの間には体力差が大きく、日没中止の五回戦まで〇—七の差がつき、本村チームは準優勝に甘んじました。

この大会は、本荘市由利郡内の商工青年部員の親睦を深めることをも目的にしており広域的商工活動にプラス面が大きいと言われています。

本村チームは、一回戦で鳥海を13—1、二回戦では、金浦、岩城をくだして進出した本荘市由利郡内の商工青年部仁賀保を4—2で破り、県大会出場権をかけてはBブロックで由利、大内をくだして進出した矢島チームと対戦、互角の試合が進められる中で六回裏、佐々木千代志選手（大琴）の三ランホーマーで一挙に三点を追加、5—3で念願の出場権を獲得しました。

このあと、前年度の県大会優勝で無条件に今年度の同大会出場資格を与えられていた本荘市と郡大会の優勝をかけて対戦しましたが、炎暑の中で四試合目の本村勢と初試合の本荘市チームの間には体力差が大きく、日没中止の五回戦まで〇—七の差がつき、本村チームは準優勝に甘んじました。

県大会は、七月二十二日、大曲市で開催されることになっています。

【写真】青年部の試合風景

青年部チームが初の県大会出場権を獲得しました。

本村チームは、一回戦で鳥海を13—1、二回戦では、金浦、岩城をくだして進出した本荘市由利郡内の商工青年部仁賀保を4—2で破り、県大会出場権をかけてはBブロックで由利、大内をくだして進出した矢島チームと対戦、互角の試合が進められる中で六回裏、佐々木千代志選手（大琴）の三ランホーマーで一挙に三点を追加、5—3で念願の出場権を獲得しました。

このあと、前年度の県大会優勝で無条件に今年度の同大会出場資格を与えられていた本荘市と郡大会の優勝をかけて対戦しましたが、炎暑の中で四試合目の本村勢と初試合の本荘市チームの間には体力差が大きく、日没中止の五回戦まで〇—七の差がつき、本村チームは準優勝に甘んじました。

県大会は、七月二十二日、大曲市で開催されることになっています。

【写真】青年部の試合風景

来年こそ"神宮球場"へ

夢つなぐ高校ナイン

下郷分校

神宮球場への夢をかけた第二十回全国高校定時制野球大会県予選は、七月二日から秋田市の県立・秋大両球場で行なわれました。

本荘高を代表して出場した下郷分校チームはピッチャー畠山の好投で順当に準々決勝へ進出、秋田工業と対戦しましたが打撃力にいま一歩の精彩を欠き四—二で敗れ決勝進出は実現できませんでした。ナインは"来年こそ"と神宮への夢をつないでいます。

順子さん全国大会へ

卓球 高校（定通制）総体で優勝

六月三十日から横手・大曲など県南二市三町を会場に開催された第十一回全県高校定時制・通信制総合体育大会に、本荘高校を代表して出場した下郷分校生徒はよく健闘卓球選手の全国大会出場をはじめいずれも上位入賞を果たし、高く評価されています。

上位入賞種目と下郷分校関係選手は次のとおり。【卓球女子団体】優勝 高橋順子。【女子バスケットボール】準優勝 太田千栄子・千葉貴和子。【男子同】三位 猪股秀雄・高橋義明。【女子バドミントン団体】三位 加藤節子・佐藤やす子・遠藤徳子。【同個人ダブルス】三位 加藤節子・佐藤やす子組。

なお、卓球団体戦出場の高橋順子さんは八月に行なわれる全国大会へ出場することになり、その健闘に大きな期待が寄せられています。

「全力尽し悔いなし」

"郡市中学総体"

七月一日から象潟中グラウンドなど郡市内五会場で熱戦が展開された本荘市・由利郡中学校総合体育大会に出場した東中選手もよく健闘し、女子バスケットボールが準優勝を飾りました。

サッカー、バレーボール、剣道などは、健闘空しく上位入賞を果せませんでしたが、選手たちは「ベストを尽して臨んだだけに敗れて悔いなし…」とばかり、来年度へ新たな意欲を燃やし再び練習に励んでいます。

東中のS先生は「スポーツは子供たちの健全育成に欠かせない最上の良薬、全力を出し切った後だけに学校全体に明るさが増し、活気が満ちて来た…」と語っていました。

消防訓練大会25日

新体制初の訓練大会は七月二十五日台山グラウンドで。

……全県少年野球地区予選……

「準決勝進出」の快挙

東中ナイン

純情に負けた"機動力"

【写真】監督の指示をうける東中ナインと応援団（東中千田先生撮影）

第三十九回全県少年野球大会への出場権をかける、本荘由利地区予選は、七月一日から一区は本荘市鶴舞球場、二区は同南中グラウンドで開催され東由利中学校は強豪出羽中を一—〇、上川大内中に一—三で惜敗しましたがその健闘ぶりは多くの人たちから称賛されています。

東由利	0	0	0	0	0	0	0	1	1		
下川大内	1	1	1	0	0	0	0			3	

本荘、由利一区には東中をはじめ、昨年度の全県選抜大会で優勝した本荘南中など十一校が出場しました。

以下東中ナインの活躍ぶりや球場に拾ったアクシデントの一端を紹介してみましょう。

東中の緒戦相手は伝統ある出羽中、ここでまず相手チームをはじめスタンドの観衆の度肝をぬく光景が展開されました。

すなわち、シートノックに入る東中ナインは全員で声をかけ闘志を盛り上げたあとそれぞれが、猛烈なスライディングでポジションにつくというこれまでにない果敢な動作を披ろう、いかにも少年らしい行動にスタンドの観衆から拍手の渦がわき起こりました。

"機動力"発揮の東中

投打ともに互角の両チームは落ちついたサインプレイで淡々と試合を進め、三回、東中の先制一点がそのまま勝敗を決するという好ゲームを演じ、"機動力の東中"と評されました。

二回戦は二日目の第四試合で上川大内中と対戦、初回一点を先取、三回裏には二点を許した後、続く四回で一点を加え、2—2の同点のまま今大会初の延長戦にもつれ込みました。

八回、二死満塁から二本のタイムリーヒットで一挙に三点をものにした東中は、同回裏、必死の反撃を加える上川大内中を一点に押さえ、5—3で一区の準決勝に進出しました。

五分刈りのきれいな頭、いかにも少年らしいキビキビした動作、落ちついたプレーを見せる東中ナインには地元以外にも多くの観衆から好感を抱かれ、さかんに声援が寄せられていました。

ハプニング同情のもらい泣き

三日目の準決勝は、松ケ崎中をノーヒットノーランに押えた下川大内中との対戦でしたが、試合開始の直前、第一試合で敗退した前年度の優勝校、本荘南中ナインの無念の涙にすっかり同情、全員がもらい泣きするという純情のハプニングが発生しました。

前日まで淡々としたプレーを見せた東中ナインはしばしの同情のあと、必ず勝ってやる…とばかり闘志をむき出しにエキサイト、動揺した心はすっかりコンデイションを崩して、三回まで毎回得点を許し、七安打を放ちながら最終回一点を返しただけで反撃のチャンスをつかめないまま3—1で惜敗しました。

東中の成田晴三、笹本信也両先生は、ナインの健闘を称えながらも「純情すぎる東中生徒に準決勝前のアクシデントがなければ……」と、実力を十分発揮しきれないままに決勝進出のかなわなかったことを残念がっていました。

根性・忍耐力を養成

一方、三日間連続して応援にかけつけたある父兄は「よくやった。あれだけやれば十分…試合にこそ負けたが健闘ぶりは少年野球の見本…」と、その健闘ぶりを称え、先生たちは、村民の声援と支援に感謝しながら来年に闘志を燃やし、雪をいかした冬期トレーニングを心がけ、負けて泣ける"根性"と"忍耐力"のあるチームに成長させたい……と抱負を語っています。

なお、八月の県大会には一区から本荘北中を破った下川大内中、二区からは金浦中が初出場を決めました。

事故防止みんなの責務

交通事故死者半減作戦、展開中

交通事故 死者早くも七〇人 全県

事故急増、二輪要注意

県では、酒飲みによる交通事故防止を目的に、七月一日から三カ月間、市町村単位の"第二回無事故競争"を開始していますが、これと平行して"交通事故死者半減作戦"も展開しています。

今年一月以降交通事故による県内の死亡者数は九日現在七十人を数え、前年同期より九人も多くなっています。

特に先月末から今月上旬にかけては、本村分も含めて連日死亡事故が発生、中でもオートバイなど二輪による事故が増加、"死亡事故半減作戦"を進める関係者に大きな不安を与えています。

本荘警察署管内では本年に入ってすでに五名が死亡、昨年同期の二倍近くに達する異常事態となっています。暑さが加わるこれからは一層多発が予想されるため総力をあげて対処することにしており、次の点には一段の注意をのぞんでいます。

①歩行者、自転車乗りの事故が増えており、交通ルールを勉強、よく守り、守らせる。②酒のみ運転、無免許運転の追放は家庭の責任で実践する③老人、子供には具体的な注意を与えて、みんなで声をかけ合う。④いつでも、どこでも安全を確かめる習慣を身につける。⑤ニュース等から事故例をとらえ、事故防止の話し合いを行なう。

ノー・モア・交通事故！

スピード、安全帽に尽きない悔恨

「…路上に投げ出されて意識がない青年を抱きかかえ、名を絶叫していた父親の悲嘆の様が今でも脳裏にこびりついて離れない……。スピードさえ出ていなかったら…。せめてヘルメットを着用していたら……」

これは、先般本村内で発生した交通事故現場を通りかかったAさんの述懐です。

スピードの出し過ぎでガードレールに激突したと見られるこの事故は、将来ある青年の生命を奪う本村初の死亡事故（本年度）となっただけにその悲惨さは想像を絶するものがあります。

往年の東中野球部選手で前日から郡大会出場の後輩チームに熱心な声援をおくっていたことから察して、当日も応援に赴く途中の事故でなかったかとも見られています。

奇しくも、初の準決勝進出と日を同じくして熱心な良き先輩を失った東中の生徒たちは「ノー・モア・交通事故」の誓いも新たに、無謀ドライバーに強い反省を求め、増加している二輪の事故に安全帽の着用と制限速度内での安全走行を強く呼びかけています。

【写真】事故急増に活躍する広域消防救急隊員（広域消防本部提供）

事故 根絶に決意を

悲惨な事故防止には警察や安全協会をはじめ、学校・村・消防署などあらゆる機関がそれぞれの立場で真剣に取り組んでいます。

しかし、交通事故は、たった一人でもルールを乱し、無謀な運転をする限り決して根絶できません。

私たちの一人一人は、反社会的行為である無謀運転は絶対しないなど、決意を新たにあらゆる事故の未然防止に敢然と取り組まなければなりません。

それが、幸福な生活を破壊させないための唯一かつ最善の責務であります。